

# 寸言

三菱重工業株式会社  
執行役員 交通・輸送ドメイン  
副ドメイン長  
富永 史彰



## 民間航空機事業の現況並びに将来に向けた取り組みについて

三菱重工業株式会社 交通・輸送ドメイン副ドメイン長の富永史彰です。当社は昨年10月と本年4月の2段階に分けて、9つの事業本部から構成されていた従来の組織体制を集約・再編し、エネルギー・環境、交通・輸送、防衛・宇宙、機械・設備システムの4事業ドメインからなる新たな組織体制に移行しました。日本航空宇宙工業会と関連の深い航空宇宙事業のうち、民間航空機を中心とした事業は交通・輸送ドメインへ、防衛航空機・宇宙を中心とした事業は防衛・宇宙ドメインへ集約・再編し、従来に増して当社グループ全体の総合力及びシナジーを発揮し、市場や顧客のニーズに対して柔軟かつ迅速に対応できる体制を整えました。今回の寸言では、交通・輸送ドメインにおける民間航空機事業の現況並びに将来に向けた取り組みについてご紹介したいと思います。

まず、ボーイング社向け航空機事業においては、ボーイング787を始めとした既存機種が前年度に引き続き増産基調にあります。これに加え本年6月に当社を含む日本企業5社と一般財団法人日本航空機開発協会は、次世代大型旅客機「777X」の開発・量産事業に参画するための主要契約条件に関する覚書をボーイング社と締結しました。これらの既存機種の増産や新機種の量産に向けた対応が急務となっており、需要の変動に対して高いロバスト性を備えた工場とすべく大規模な生産システムの改革に着手するとともに、サプライヤーを含めた国内外の生産拠点の集約・展開を図っております。

また、民間航空機用エンジン事業においては、近年の旺盛な需要を背景に新規開発が相次ぎ、今後大幅な伸長が期待されております

が、その中であって国際競争力の更なる強化のためには、生産能力の整備や製造技術の向上に加え、開発参画を続けていくための資本力の強化が求められる状況にありました。この状況を受け、本年10月に民間航空機用エンジン部門を会社分割・移管することによって新事業会社を発足させ、当社としてその事業展開を全面的に支援していく体制とすることにしました。同社では営業・設計・製造から修理まで全ての業務領域をカバーする一貫体制を構築するとともに、市場の拡大と生産能力の拡充に向けた体制の整備と外部資金導入による資本力の強化を図っていきます。

一方、完成機事業であるMRJに目を向けますと、本年6月に飛行試験初号機の翼胴結合が完了、同機にエンジンを搭載するとともに、今後は全機静強度試験の開始を予定しております。また、米ワシントン州モーゼスレイク空港を拠点として飛行試験の一部を実施することを決定し、来年に予定している飛行試験に向けて、具体的な準備作業に着手しました。更には、本年7月に愛知県より県営名古屋空港隣接県有地における航空宇宙産業クラスター拠点事業に係る事業者として選定され、同地において最終組立工場等を建設し、量産機の製造を行う準備を開始しました。このように飛行試験と初号機引き渡し、更にはその後における量産に向けた取り組みを強化しております。

上述の通り日本の航空宇宙産業の更なる発展に貢献していく所存でございますので、会員各社様におかれましては、引き続きご指導・ご支援を賜りますよう何卒、お願い申し上げます。